

につせき ぬくもり通信

<http://www.matsuyama.jrc.or.jp/>



Vol.14

2008年7月1日

編集・発行 / 松山赤十字病院

〒790-8524 松山市文京町1番地

TEL089-924-1111 FAX089-922-6892

《基本理念》人道・博愛・奉仕の赤十字精神に基づき、医療を通じて、地域社会に貢献します。

腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療をはじめました。



松山赤十字病院 第二外科副部長

山岡 輝年

はじめに

腹部大動脈の壁が弱くなり、風船様に拡張してくる病気です。拡張が進み破裂をきたすと突然死に結びついてしまいます。これまで、この腹部大動脈瘤に対しては破裂予防を目的に開腹下に動脈瘤部分を人工血管に置き換える手術が行われてきました。約半世紀の歴史がある手術方法で、現

在、日本における手術死亡率は1~2%で、術後10年以上の長期間の成績も良好です。しかし、全身麻酔下に大きな開腹のもと行う手術であり、腹部大動脈瘤を患っている方は高齢でその他の病気を持ち合わせている方が多く、体に対する負担が大きいことが問題となっていました。この解決のため、研究開発された治療法がステントグラフトによる血管内治療です。

欧米では約10年前より一般的治療法として普及し、日本においても2007年4月から市販のステントグラフトを用いた治療が保険診療として認可されました。ステントグラフトを行うには、実施基準管理委員会による施設および施行医には厳密な審査、認定が必要で、当院および血管外科担当の山岡はこれらの認定を受け、腹部大動脈瘤に対する新しい治療方法であるステントグラフト内挿術を本年2月よりはじめました。

ステントグラフト治療の実際

両側のソケイ部に数cmの切開を加え露出させた大腿動脈からカテーテルを用いて拡張した動脈瘤内にステントグラフト（金属バネ付き人工血管）（写真1）を留置して、弱くなった動脈瘤の壁にかかる圧力を減らし、拡大・破裂を

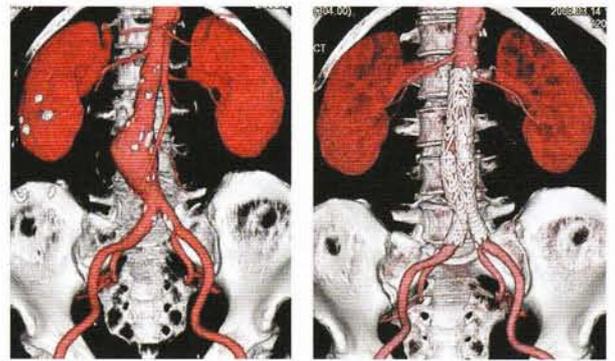


（写真1）

GORE TEX社製のステントグラフト形状記憶合金による骨格とePTFE人工血管との組み合わせ。

予防します。当院にて行った実際の患者さんのステントグラフト治療前後の画像検査を示します。

（写真2）



（写真2）

手術前3DCT

ステントグラフト挿入後3DCT

ステントグラフトの利点と欠点

利点は手術時の体の負担が少なく、術後の回復も早く、術翌日から食事、歩行が可能で、術後1週間程度で自宅退院となります。従来の開腹下の手術と比べ、負担の軽さは明らかであります。

欠点としては、新しい治療ですので10年以上の長期的な成績は明らかではありません。また、ステントグラフト辺縁からの動脈瘤内に血液の漏れが起きる可能性があり、定期的なCT検査（6か月ないし1年おき）が半永久的に必要で、追加の処置が必要となる場合もあります。また、残念ながら全身状態ではステントグラフト治療が望ましい場合でも、動脈瘤およびその前後の正常動脈の血管の大きさ、走行、長さ、性状によっては適合しない場合もあり万能ではありません。

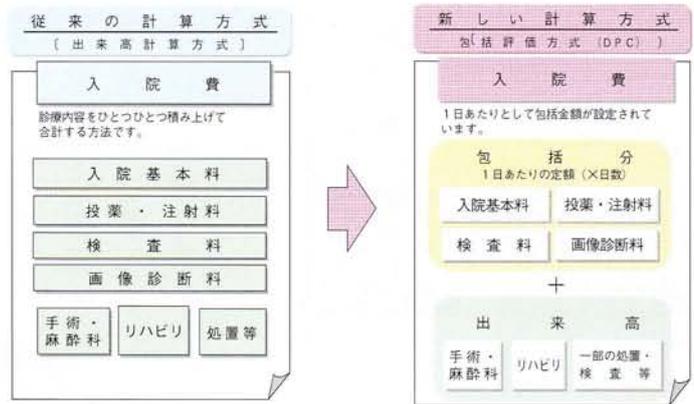
まとめ

腹部大動脈瘤に対する治療は、現在2つの選択肢があります。2つの手術方法には利点欠点がありますので、患者さんの全身状態の評価と3DCTなどの精密な画像診断を基に、それぞれの患者さんにとって最良の方法を選択することが重要と考えています。

～DPC導入について～

平成20年7月1日より 入院医療費の計算方式が変わります。

松山赤十字病院は、厚生労働省が指定する「包括評価方式(DPC)」という新しい医療費制度での請求を行うこととなります。それは、従来の診療行為ごとに計算する「出来高払い」方式とは異なり、入院患者様の病名や症状をもとに手術などの診療行為の有無に応じて、厚生労働省が定めた1日当たりの診断群分類点数をもとにした医療費を計算する新しい定額払いの会計方式ということになります。



～大空から「しあわせの花」を～

全日空より「すずらんの押し花しおり」寄贈

全日空グループでは、入院患者の皆様になんかになってもらうことを願って、昭和31年から全国各地の赤十字病院等へ「すずらん」の寄贈を行っており、当院においても6月6日(金)全日空キャビンアテンダントの松本樹美さん(愛媛県松山市出身)が病院を訪問して、松山空港に到着した「すずらんの押し花しおり」400枚を届けてくれました。

贈呈式は、13時30分から当院玄関ロビーにて行われ、亀岡涼子さん(33病棟看護係長)、越智瞳さん(26病棟看護師)がすずらんの押し花しおりを受け取った後、病院を代表して青野事務部長から全日空グループに対し、お礼の挨拶がありました。

その後、キャビンアテンダントと病院代表者は、23病棟(産婦人科病棟)、35病棟(外科病棟)、15病棟(消化器科病棟)を訪問し、「すずらんの花言葉は幸せの再来です、一日も早い回復を願っております。」とすずらんの押し花しおりを患者様に手渡され、患者の皆様は、「早く退院できるようにがんばります」と笑顔で答えていました。



第5回 地域医療連携フォーラム開催

テーマ：脳卒中のシームレス(継ぎ目のない)医療を目指して

日時：2008年7月6日(日) 13時開演

場所：愛媛県民文化会館 サブホール

内容：(1) シンポジウム

「地域医療連携による脳卒中のシームレス(継ぎ目のない)医療を目指して」

松山医療圏における脳卒中医療の現状と今後の展望について、連携する各領域から情報提供いたします。

(2) 報告「愛PLAnetの現状について」

主催：松山赤十字病院

定員：1,000名程度

入場料：無料

どなたでも参加いただけます。ひとりでも多くの皆様の参加をお待ちしております。

